

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1617 号

食道癌における血中循環腫瘍細胞測定と予後の評価

(Evaluation of the circulating tumor cell (CTC) measurement and prognosis in esophageal cancer)

北野 裕巳 (きたの ひろみ)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、癌の中でも予後不良であり近年増加傾向にある食道癌における末梢循環腫瘍細胞 (CTC) が予後に影響しうることを示唆した論文である。

根治切除を施行後、数年のうちに再発することも多々みられる食道癌において、予後を評価しうるマーカーの発見が望まれてきた。近年、乳癌や前立腺癌、大腸癌において CTC が血行性転移の予後評価の因子として注目されているが、食道癌においては全国的にも症例数が豊富な施設は少なくあまり研究されていないのが現状である。

今回の研究は食道癌の症例数が豊富な順天堂大学上部消化管において CTC と無増悪期間や全生存期間をはじめとする予後に影響しうる各項目 (組織型・病変部位・深達度・リンパ節転移・病期・腫瘍マーカーなど) に関して検定を行った。

検定の結果 CTC が直接予後に影響している結果は得られなかったが、CTC と腫瘍マーカーである CYFRA において相関を認めた。CYFRA 陽性例が食道扁平上皮癌における再発の予後不良因子の一つと考えられるとの報告もあり、CTC が食道癌において予後を規定する因子となりうる可能性が示唆された。

今回行った症例数は 45 例と少なく、今後も現在の症例における再発の有無や予後を追跡していくとともに、症例数を増やしてさらなる検討を行っていく必要があるが、CTC が食道癌における予後を予測しうる因子となりうる可能性が示唆された。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。